

## 教育長室からのお知らせ No. 100（令和5年11月）

教育長 田中 康寛



金木犀の香りに秋を感じる季節となりました。つい最近まで夏日があったかと思えば、昼夜の気温差が大きくなってきており、疲労や不調が起こりやすい時期でもあります。現在、市内の学校では、季節性インフルエンザが高止まり傾向にあり、学級閉鎖もみられます。うがいや手洗い、換気など、改めて、基本的な感染対策をお願いいたします。

先月、誰一人取り残されない学びの保障に向けて、文部科学省が「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」を公表しました。これは、令和4年度の小・中学校における不登校児童生徒数や、このうち学校内外で相談を受けていない児童生徒数、また、いじめの認知件数や重大事態の発生件数、いずれも過去最多となったことを受けてのことです。各自治体には、不登校緊急対策として、校内に落ち着いた空間で学習・生活できる環境を作ることや、不登校・いじめの早期発見ができるように、学習用端末を活用した SOS 相談窓口の集約・周知などが求められています。教育委員会では、電話、面接、訪問、eメール、SNSによる相談体制を整えておりますが、相談窓口の周知や、子どもたちが相談しやすい環境づくりをさらに進めてまいります。また、子どもたちにとって、教職員は頼れる身近な大人であるため、子どもたちとの信頼関係を築いてまいります。

各学校では、校長のリーダーシップの下、学校の教育目標の実現に向けて日々の教育活動を振り返り、評価し、改善につなげています。現在の取組状況をみると、ICTについては、徐々に活用できてきていますので、指導者用端末、学習者用端末ともに、より一層の活用を図ってまいります。各学校間や園との交流活動が再開され、中学校ブロック内での参観や授業、行事への参加が見られます。引き続き、交流活動の機会の確保に努めてまいります。

今月から教育委員交流会として、教育委員が9校を訪問します。これは、教育委員が学校の実態を把握し、教育の方針に関する審議等の際の一助とするものです。行事の参観や給食交流、委員会活動での交流など、児童生徒との触れ合いを中心にした内容の計画を立てています。中学生海外派遣事業・受入事業の取組もそうですが、学校外の方々との対面での交流の機会を積極的に捉え、児童生徒や教職員の成長につなげてまいります。

結びに、平成21年（2009年）の教育長就任当初から発行し始めた「教育長室からのお知らせ」が、今号にて100号を迎えました。この間、地域や保護者の皆様に支えられ、人と人とのつながりを大切にしながら様々な教育施策に取り組むことができました。皆様のご理解・ご協力に深く感謝いたします。今後も、本通信を懸け橋とし、皆様と教育に関する思いや願いを共有しながら、「人をつなぐ 未来へつなぐ 市川の教育」の基本理念の実現に向け、教育の振興を図ってまいりたいと考えております。